

## (6) 災害時の心がまえ

### ▶ 人とペットの安全確保

もし、災害が発生した時は、まず自分の身の安全を第一とし、落ち着いて自分とペットの安全を確保する。突然の災害で、ペットもパニックになり、いつもと違う行動をとること

があるので、ペットを落ち着かせるとともに、逸走やケガなどに気をつける。その際、リードをつけたり、ケージに入れるなどして、ペットの安全に配慮する。

### ▶ ペットとの同行避難

避難をする際には、飼い主はペットと一緒に避難する同行避難が原則となる。発災時に外出しているなどペットと離れた場所にいた場合は、自分自身の被災状況、周囲の状況、自宅までの距離、避難指示等を考えて、飼い主自身によりペットを避難させることが可能かどうかの判断が必要となる。

万が一、ペットとはぐれた場合には、ペットについての情報や避難時のペットの状況について、自治体の動物担当部署、警察等に届ける。

また、やむを得ずペットと一緒に避難できず、自宅等に置いてきた場合には、自治体の動物担当部署に相談する。

#### ◎同行避難する際の準備の例

##### 犬の場合

- リードを付け、首輪が緩んでいないか確認する。
- 小型犬はリードをつけた上で、キャリーバッグやケージに入れるのもよい。

##### 猫の場合

- キャリーバッグやケージに入れる。
- キャリーバッグなどの扉が開いて逸走しないようにガムテープなどで固定するとよい。

## ▶ 避難所・仮設住宅におけるペットの飼育マナーと健康管理

避難所・仮設住宅では、様々な人が集まり共同生活をするため、動物との暮らしが苦手な方やアレルギーの方もいることを認識しなければならない。これまでの災害では、ペットがいることによってつらい避難生活の中での心の安らぎや支えとなったという声がある一方、咬傷事故や鳴き声への苦情、体毛や糞尿処理など衛生面でトラブルになることもある。

避難所や仮設住宅では、ペットの飼育管理は飼い主の責任で行う。衛生的な管理を行うとともに、飼い主同士等で周りの人に配慮したルールを作ることも必要である。

また、ペットは、ストレスから体調を崩したり、病気が発生しやすくなるため、飼い主はペットの体調に気を配り、不安を取り除くように努める。



避難所では、周りの人への配慮が必要

## 避難所でのペットの飼育事例（東日本大震災）

避難所におけるペットの取扱いは様々であり、屋内で飼育が認められている場合やペット専用係留場が設置されている場合、また人とペットが車中生活するなど避難所により対応は異なっていた。



ペット専用係留所で飼育されている様子（岩手県）



屋内で飼育している様子（岩手県南地域）



人とペットの同居テント（仙台市）



ペットとの車中泊（仙台市）

## <普及啓発の方法>

飼い主に対して前述の事項を普及啓発するにあたっては、リーフレットの作成やウェブサイトでの公開、公報や回覧板等の活用、研修会の開催やペット同行も含めた避難訓練の実施など、あらゆる機会を通じて普及啓発に努める。

### ● 環境省「備えよう！いつもいっしょにいたいから」

災害時にペットと一緒に避難するために、普段から備えておくことや、避難所等で気をつけることなどをまとめた飼い主向けのパンフレット。

→ 環境省：[http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2\\_data/pamph/h2309a.html](http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/pamph/h2309a.html)



## <普及啓発の方法>

### ●新潟県獣医師会「準備しておきたい防災グッズと心構え」

→新潟県獣医師会：[http://www.niigatakenju.or.jp/05aigo/05pdf/bousai\\_new.pdf](http://www.niigatakenju.or.jp/05aigo/05pdf/bousai_new.pdf)

## これだけは準備したい！防災グッズと心構え

### 大原則は、同行避難

！必ず動物と一緒に避難する



\* 事前に避難所と動物の同行が可能かを確認しておく。

ふだんからの心構え

- ワクチン接種と登録・マイクロチップ
- しつけ・クレートトレーニング
- 避難訓練

ケージに馴らしておく

CHECK  
防災グッズ



□3日分のフードと飲料水、食器

□バスタオル、くし、ブラシ、ガムテープ

□動物の写真、健康メモ  
鑑札・注射済票

□引き綱、首輪、迷子札

□排泄用品、猫砂、  
ペットシート

□キャリーバック、簡易ケージ

《公益社団法人 新潟県獣医師会》

(イラスト 加藤琴美)

### ●仙台市「避難訓練の際に配布している災害啓発のチラシ」

仙台市では、避難訓練の際に、災害が起こったときに備えて平常時から飼い主が準備しておくことについてまとめたチラシを配布している。

仙台で2030年までに大規模地震が起こる可能性は90%以上といわれています。地震の時は家族の一員である動物と一緒に避難できるように今から準備しておきましょう！

**明日来るかもしれない災害に備えて  
私たちはペットのために  
何ができるでしょうか？**

- 1 首輪などの目印が大切です  
住所・電話番号を書いた首輪・迷子札・鑑札など身元がわかるものを必ず書きましょう。将来的にはマイクロチップを検討してもいいのではないのでしょうか。
- 2 動物は原則として室内で飼育できるように考えましょう  
仮設住宅に入ったときに他人に迷惑をかけないために、動物は室内で飼育できるようにケージトレーニングしておくか、いつも室内で飼育しましょう。
- 3 散歩等で屋外に連れ出す時は、自宅で排泄を済ませ、リードを装着して  
犬は、興奮例で放し飼いが禁止されています。猫も可能であれば、首輪・リードに慣らしておくことが便利です。又、排泄排便も、できるだけ決められた場所でさせるように訓練しておきましょう。
- 4 伝染病予防のためワクチン接種を受けましょう  
災害時でも大切な動物が伝染病に罹らないようにするために、犬も猫も定期的に各種ワクチン接種を受けておきましょう。
- 5 避妊・去勢手術を受けましょう  
災害時の事だけでなく、動物の健康保持や行動面でのメリットを考え避妊・去勢手術をご検討下さい。詳しくは掛かり付けの獣医さんにご相談下さい。
- 6 動物用避難用品を確保しておきましょう  
餌・水(3日分位)・食器・引き綱(リード)・ペットケージやカーゴ・籠等の汚物処理用具・ペットシート・予防注射の記録などの健康記録・常備薬等
- 7 動物避難場所を確認・確保しましょう  
避難経路を日頃の散歩コースに入れておく。又、緊急時に、親類・知人・動物病院など、動物を一時的でも預かってもらえる場所を確保しておきましょう。
- 8 最低限のしつけが大切です  
家族の一員として避難生活を一緒にするため、日頃から最低限の基本的な「しつけ」をしておくことが必要でしょう。「オイデ」・ケージトレーニング・人や他の動物たちに馴れさせておくこと
- 9 飼育者のグループをつくって話し合いましょう  
動物飼育者で構成するグループを作っておきましょう。中間の相談を受けるだけでなく、動物を飼っていない方からの相談窓口にもなり、不安解消にも役立ちます。グループについてはNPO 法人エーキューブ ができる範囲でサポートします。  
皆さんのご家族に合った防災マニュアルを作ってみてはいかがでしょうか。

仙台市動物管理センター  
NPO 法人エーキューブ  
(仙台市宮城野区扇町 6-3-3)  
Tel:022-258-1626

一緒に乗り切ろうとするときには、人も動物もがんばれると思います。